

【パネル発表】

マーク・ブレイ

ユネスコ国際教育計画研究所 (IIEP) 所長



一日の最後のセッションのパネルに参加するのは大変ではありますが、よいこともあります。その一つは、これまでのプレゼンテーションの内容を反映させながら討議できることです。座長も指摘したように、セドー教授は多くの問題を取り上げ、どれも重要な課題だと言われました。セドー教授のプレゼンテーションから他にも学べるものがいろいろあり、このパネルでも取り入れてゆきたいと思います。

ご紹介いただいた通り IIEP における私の役割は、国際的に見て、ユネスコの加盟国が様々な決定を行う際に役立つ経験や教訓を明らかにすることです。ユネスコは多くの書籍やウェブサイトなどで活動を紹介しています。「EFA グローバルモニタリングレポート」をご存じの方もおられるでしょう。2009 年版はガバナンス¹を特集し、教育の質を取り上げています。これはまさに本フォーラムで取り上げているテーマです。

そのような文献を読むと、2008 年のフォーラムのメッセージや過去数十年の関係会議と比べて、2009 年の今回のフォーラムは、どう同じでどう違うのかと思うでしょう。セドー教授のお話にあったように、数多くの問題がある程度今も続いていることは確かです。しかし多くの分野で前進もしています。そのいくつかはグローバルモニタリングレポートでも取り上げています。2008 年の JEF V では、アフリカ教育開発連合 (ADEA) のママドゥ・ンドイエ氏が基調講演者でした。そのときの報告書には、彼が「アフリカ悲観主義」は危険だと述べたことが引用されています。幸いにも「アフリカ楽観主義者」もいて、彼らは大きな進歩を指摘しています。

2008 年の JEF では、だれも今のような金融危機を予想していなかったと思います。そういう意味で、2009 年のフォーラムの状況は 2008 年のフォーラムの状況と大きく異なります。このような状況の変化に、私たちはどのように対応すればよいのでしょうか。教育者の会議では、教育こそ金融危機の際にも守らなければならない基本的な投資であると主張するでしょう。これは重要なメッセージで、広く伝えなければなりません。教育者の間だけでなく経済開発省やその他の人々にも、このメッセージを伝えなければなりません。とりわけ基礎教育を守ることが重要です。基礎教育こそ、それ以降のあらゆる教育の土台となるからです。教育の公平性と質は両方とも重要な優先課題であるというのが、今日私が聞いたメッセージの一つです。

長期的にみて、この数十年間でどのように私たちの仕事が変わってきたかを考えると、以前はそれほど緊急を要した問題ではなかった汚職が、現在は重大な問題となっています。この点について IIEP は、汚職の規模や対策に関する重要な活動を行ってきました²。状況は曖昧かつ複雑になってきています。EFA グローバルモニタリングレポート 2009 は不平等を取り上げています。公共部門は公平を重視し一般市民のニーズに応える役割があるとセドー教授は強調しました。セドー教授が言われたように、児童の大多数は公教育に

¹ UNESCO (2008): *Overcoming Inequality: Why Governance Matters. EFA Global Monitoring Report 2009*. Paris: UNESCO.

² See e.g. Hallak, Jacques & Poisson, Muriel (eds.) (2006): *Governance in Education: Transparency and Accountability Matter*. Paris: UNESCO International Institute for Educational Planning (IIEP); Hallak, Jacques and Poisson, Muriel (2007): *Corrupt Schools, Corrupt Universities: What can be Done?*. Paris: UNESCO International Institute for Educational Planning (IIEP).

頼っています。ここ数十年の間に私立の教育機関が大幅に拡大しており、公教育を捨て私立学校を選ぶ裕福な家庭が増える危険性があります。

また、中央集権化と地方分権化のバランスも注意深く監視しなければなりません。今朝、外務省の代表者が分権化を加速するのが望ましいと言われました。しかしある程度の注意が必要でしょう。なぜなら分権化が進む中で、不平等が拡大し、制度全体の有効性が低下し、小さな汚職の機会が広まる場合もあるからです。すべての行政機構は、国家の役割を明確に理解した上に構築されなければなりません。多くの国々は、この点を強化する必要があります。現在の金融危機によって、自己調整機能の弱い民間部門の存在が暴露されました。皮肉なことに、経済を崩壊させた民間部門の問題は、公共部門にも問題をもたらしています。各国政府は、税収が落ち込み財政基盤が弱体化する中で、公共部門を強化するためではなく、銀行や民間企業を支えるために公的資金を注入しなければなりません。国際的には、この危機によって低所得国の公共部門に対する援助が削減される危険性があります。つまり、中央政府においても地方自治体においても公教育制度を強化しなければならないのに、目標を達成する資金の確保がますます困難になる可能性があるのです。

IIEPは主要な取り組みの中で、これらのテーマも取り上げています。私たちの主な役割は、ユネスコの加盟国の政府と協力して、各国の活動を支援することです。市場操作が公立学校制度の内外に及ぼす影響も調査しています。IIEPは具体的な取り組みの一つとして、経済などの諸要因によって公立学校の制度外で民間教育がどの程度広まっているかを調査しています³。日本では「影の教育」ともいえる「塾」の長い伝統があります。世界でも様々な形の「影の教育」が広まってきています。民間教育にも長所があるかもしれませんが、多くのマイナス面もあります。特に、公立学校の教員が民間で教える機会を増やすためにカリキュラムの内容を意図的に抑えることが大きな問題です。これによって、政府が公教育を無償化している一方で、授業料を払う教育が拡大しているという矛盾が生じています。このような「影の教育」の拡大は、ガバナンス、公平性、質に大きな影響を与えています。

最後にまとめとして、ガバナンスは非常に重要なテーマで、私たちはお互いに多くのことを学びあえるということを申し上げます。これは複雑な問題です。簡単なら、このようなフォーラムで議論する必要がありません。国際協力の大きな利点の一つは、世界各地の経験を学べることです。このフォーラムを開催下さった日本の主催者に、心より感謝申し上げます。パネリストの他の2名のお話や、皆様との意見交換を楽しみにしています。

³ See e.g. Bray, Mark (1999): *The Shadow Education System: Private Tutoring and its Implications for Planners*. Paris: UNESCO-IIEP; Bray, Mark (2009): *Confronting the Shadow Education System: What Government Policies for What Private Tutoring?* Paris: UNESCO-IIEP.